

特別講演 1

「心不全の診断と治療 ―最近の話題―」

財団法人豊郷病院 院長

蔦本 尚慶 先生

慢性心不全を対象にした大規模臨床試験の結果、レニン・アンジオテンシン・アルドステロン系（RAAS）や交感神経系の経路を遮断することによって、心保護作用を増強させる薬剤が慢性心不全予後を改善することが証明されるに至り、慢性心不全の発症進展には、神経体液因子のバランスの破綻が重要な因子であることが証明された。言い換えれば、収縮機能低下による心不全治療薬とは、RAAS 阻害薬や交感神経系遮断薬である。2010 年に改訂された「慢性心不全ガイドライン」について、診断・治療効果・予後予測における BNP などのバイオマーカーの意義、ACE 阻害薬間での差異の可能性、ミネラルコルチコイド受容体阻害薬の有用性などの最近の話題についてお話ししたい。